*ロジャー: オデシア*

***日本語(JP)スクリプト【第1版】***

アーティスト: zhizhong xue diamond 2024.8.18

***著作権表示: シナリオストーリー、設定及びそのキャラクター名は復興情報メディアグループ傘下の崎空天龍スタジオの知的財産権であり、不正使用行為があった場合、法的責任を追及する。***

***時代: 呉元7077年以降の資本主義時代(呉元は決して呉逵元年を指しているのではない)***

***世界:***

1.7077年、科学技術はどこにでもある。産業オートメーションによって、ほとんどの公共交通機関は、電車、地下鉄、公共交通機関を問わず、自動運転を実現しています。これらの車両はすべて独立した意志を持ち、路上で互いに交流し、随時自己修正し、機動的に状況に対応することができる。

2. クラス:

1. 政府高官(権力の階級) :

担任とクラスの幹部と学校の事務は、いつもつながっていて、今ではそれを隠すことさえ軽蔑《けいべつ》している。クラス担任の権限は学校のリーダーシップのほんの一部にすぎませんが、クラスは依然として強い影響力を持っています。これらの権力者、階層というのは、たいてい学校の幹部、クラスの幹部などであって、その権力がどういうものであったかは、もはや誰も知らない。

社会の名士:

周知のように、社会には常にハイエンドの「人材」が擁護されている。学校は、小さな社会であり、常にそのような“グエン xx”のようないくつかのよく知られている人々は、彼らがどのように赤であるかを知っていますか?

最下層

(20代女性)普通の人でも、道なんてないからいいよ。平穏無事に一生を過ごせますように(心から願っています)

3. 会社

実際の会社と同じように、学校にも多くの会社が存在します。これらの会社は、手で空を覆い、学年をまたぐ巨大企業にまでなりました

1号館は多くの大企業のグローバルセンターであり、イーストアイランドやディンランド・テクノロジーズのような巨大企業が地域支社を置いている。東島はコンピューターサービスを提供し、日本製品を丁中全体にダンピングするのが主業務だった。長年にわたり、サイバー暗殺者、弁護士団、そしてギャングとの密接な関係を通じて、それは自分自身の顔を隠し、恐ろしい悪名高い会社になりました。

書海は、全校生徒全員の外部ネットワークアクセス端末の完全なコントロールを握っており、すべての端末が shuhai のネットワークに接続されているため、誰もそのネットワークに何があるのか分からない。その提供端末の品質は特に悪いです, また、唯一の修理のために海の本のアウトレットに移動することができます, コストは泥棒 jb 高価です。

イーストアイランド、学生の自発的な組織によって設立された巨大企業、すべての年齢のために、すべてのクラスは、彼らのサービス拠点を持って、学生のスマートターミナルの修理の需要が高まっています,グループの研究をサポートするための膨大なキャッシュフローを提供しています。実際、このグループは純粋で平和なネットワークを作りたいと思っていたので、ブックハイと戦ってきました。

ディンランド・テクノロジーズ、学校の企業、いわゆる「学企」は、本質的に以前の生徒会であり、傘下の対情報部門はさらに優れており、学校に関する否定的なニュースはすべて消去されます。重要なことは、実際の支配者である盧文鋒が初めて才能がないために本偉大学に入学できないと言ったことであり、後にまた家庭が背景がないために入学できないと言ったことである。しかし丁真中学にいるのだから、いいものではない。

丁蘭厠所集団は丁中後方勤務服務集団とも呼ばれ、撤碩と食堂を連携させ、最も大変な不味い食事を作ることを専門としている。

***場所:***

恒州市丁真実験中学校、恒州最 sb の学校で、卒業率は100% に近い食堂の食事は普通のまずいものではなく、食べると胃腸に感染する

イーストアイランドセンター、最大の情報技術サービスグループ、イーストアイランド、の拠点

ワンワン・イースト・タワーはブックシーのグローバル・セントラル・サーバーだ

***アイテム:***

Reworld: 東島が開発したデストロイヤーチップの本質は、インターフェースに超高圧パルス破壊回路を送り込むこと

ブックハイパッド: 壊れたフラットパネルで、学生が授業を受けたり、宿題をしたりします。10時間充電して、10分使って、10分で100回しか死なない

***ロール:***

Roger lin (ロジャー・リン) : 天狗、人間は馬鹿で金持ち(本当に金持ち)、そして国語嫌い

Kiwi b: a 級戦犯 sb の国語の授業の代表、聖母、脳が入っているのは学海システム、毎日死機、バスのようだ

坤坤霞: スーパー a 級戦犯、やはりバスで、夫に病院に入れられた

富哥: お金持ちのふりをして、バスを探して21日恋愛の時間管理マスター

李坤坤: sbtm 頭もあまり良くない「感情マスター」は発作が好き、久凌爾班の担任

呉 yl: 伝説の校長はとても jb 魔法で言うことができません

賀東島: 最大の情報技術サービスグループである東島の創業者兼 ceo 兼会長

盧文鋒: しばしば授業中に犬が吠えて、声がとても大きいので、影響した1141514 \* 10086クラス、事務机の上のミルクティーコップの束はすでに同じ事務室の女性の先生、大頭の息子

***その後の第一部のストーリーは全て簡単なメインストーリーです!***

***序章***

また普通の朝だった

スマートウィンドウの隙間から差し込む日差しが恒州市丁真実験中学の廊下に注ぎ、慌ただしく動く生徒たちの姿を映し出している。呉元七〇七七年の朝は、いつもと変わらなかったが、空気には何かただならぬものが漂っているようだった。

ロジャー・リンは自動的に清掃された廊下を軽快な足取りで歩きながら、この学校の落ち込んだ雰囲気には似つかわしくありませんでした。今日、彼は自分の「愚かさとお金」の特性を使って、クラスに少し変化をもたらすつもりです、彼は言語を嫌っていますが、新しいものへの好奇心と寛大な習慣を持っています,クラスメートの間で、彼の立場を変えようとしています。

クラスに入ると、ロジャーはたちまち喧騒《けんそう》に包まれた。A 級戦犯を自称する国語科の代表者 kiwi b が教壇に立ち、学海システムをインストールしたかのような頭で、教師でさえ頭の痛い古文の問題を解こうとしていた。彼女の説明はロボットのように正確だったが、人間的な温度を欠いており、学生たちを夢中にさせた。

「ねえ、ロジャー、また何か新しいアイデアが浮かんだ? 」クラスメートの一人が期待に目を輝かせて近づいてきた。

ロジャーは微笑みながら、リュックサックから精巧な小箱を取り出しました。中には、彼が投資した最新のテクノロジー製品、すなわち古代文字をスマートに分析して単純化する学習支援装置が入っていました。これはクラスの国語の成績を飛躍的に向上させることになるだろう、と彼は確信していた。

しかし、展示しようとしたとき、教室のドアが勢いよく開き、担任の李坤坤(りこんこん)が真顔で入ってきた。その目つきには厳しさだけでなく、かすかな懸念《けねん》の色が浮かんでいた。

「学生のみなさん、今日話し合うのは勉強の問題だけではありません」という李坤坤の声が教室に響き渡った,「最近、学校内外で異常な事態が発生しており、東島テクノロジーと私たちの学校との連携にも影響が出ています。デマを鵜呑みにしないよう、警戒していただきたいと思います」

その言葉を聞いて、教室はしんと静まり返った。イーストアイランド・テクノロジーは、学生が自発的に組織した巨大企業であり、常に彼らの誇りでした。それは技術革新の最前線であるだけでなく、本の海の独占に対抗し、自由なネットワークを追求する彼らのシンボルでもあります。

そんな折、東島の創業者兼 ceo である賀東島が教室の前に突然現れた。シンプルなシャツを着て、毅然《きぜん》とした目つきをしている。生徒たちは希望の灯台を見るような、感心したようなまなざしを投げかけた。

「みなさん、安心してください。東島はいつもあなたたちの味方です」賀東島の声は穏やかで力強かった,「私たちは、本の海の独占を打破し、より自由で純粋な学習環境を作り出すための新しい技術を開発しています。」

その言葉に、教室から大きな拍手が起こった。ロジャーも興奮してこぶしを握りしめ、彼らがひとつになれば不可能なことはないと信じていた。

その日はロジャーと彼のクラスメートにとって特別な日になるはずでした。テクノロジーがどこにでもあり、階層がはっきりしているポスト資本主義の時代に、彼ら一人ひとりが現状を変え、より良い未来を創造する力を持っていることに気づき始めている。そしてそのすべては、彼らの中にある知識への渇望と自由への追求から始まった。

***第一章***

運の悪いロジャーは、賞状を小学校の情報教師に丁真中学校まで届けられたため、ここまで来ることを余儀なくされた

重苦しい気持ちで丁真中学の門をくぐったロジャーズの足取りには、無念さと好奇心が入り混じっていた。木漏れ日がまだらに顔を照らしていたが、心の曇りを払いのけることはできないようだった。煉瓦のひとつひとつが、見慣れた小学校とは打って変わって、妙に緊張した雰囲気が漂っていた。

教務所へ向かう道を歩きながら、ロジャーの想いは千々に... .彼は新しい環境で遭遇するかもしれないさまざまな挑戦を想像します: 見知らぬクラスメート、厳しい教師、重い授業...... それらの考えは一つの岩のように彼を圧迫した。しかし同時に、これは新しいスタートであり、ここに自分の居場所を見つけ、違った自分を見せることができるかもしれないという、漠然とした興奮もあった。

事務所に着くと、ロジャーは大きく息を吸い、勇気を出してドアをノックしました。どうぞ、という低い声が聞こえ、ドアを開けると、中年の女性教師が書類の山に埋もれていた。ロジャーが小声で、「こんにちは、ロジャーです。賞状の件で、こちらに転校してきました」

女教師は顔を上げ、ちょっと驚いたような目をしたが、すぐに優しさに取って代わった。「あら、ロジャー、丁真中学校へようこそ」彼女は立ち上がり、微笑みながらロジャーに近づいてきた,「私はあなたの新しい担任です、李先生。心配しないで、ここはあなたの新しい家になります。私たちはこの素晴らしい時間を一緒に過ごします。」

李先生の案内で roger さんはキャンパスを見学し、どこも生気と活力に満ちていた。バスケットボールのコートでは少年たちが汗を流し、グラウンドからは笑い声が響き、図書館内は静まり返り、学生たちは読書に没頭している。ロジャーはまるで新しい世界に溶け込んだように感じ、これまでにない帰属感が生まれました。

あの思いがけない転校のおかげで、彼は過去の束縛から解放され、未来を抱きしめることができた。そして、かつて彼にとって不慣れな場所だった丁真中学は、今では彼の心の中で最も温かい港となっている。

しかし彼が知らなかったのは、悪夢が始まったばかりだということだった。

***第2章***

ロジャーは学校の授業の初日に、悪名高い本のタラップをもらった

ロジャーは、学生たちが「溥儀の専用タブレット」と呼んでいるこの設備に好奇心と不安を感じていた。市販のピカピカのタブレット端末というよりは、いささか古びて、画面は細かい傷だらけで、まるで無数の先人たちの汗と知恵を記録しているかのようだ。先生は彼らに、この平板は学校がわざわざゴミ捨て場から掘り出してきたもので、外見は目立たないが、中に秘められた学習資源は学校がお金を稼ぐ良い方法だと教えた。

最初のクラスでは、教師がブックハイタブレットを使用して資料を検索する方法、課題を提出する方法、および教室でのやり取りに参加する方法を示しました。Roger さんは、インターフェースはシンプルであるにもかかわらず、機能がそれほど強力ではないことに驚きました。ちょっとやそっとのことでフリーズしてしまうのだ。

授業が終わると、 roger は本の海板を使って探検するのを待つことができませんでした。彼はまず、学校のデジタル図書館を訪れ、そこには膨大な量の書籍や論文だけでなく、多くの生き生きとした興味深いマルチメディアリソースがありました。しかし、これらのリソースは、間違いなくすべて有料で利用できます。

時間が経つにつれて、 roger は徐々に海板が単なる学習ツールではなく、ゴミであることを発見しました。

***第3章***

Roger 突然、ワンワンイーストタワーは本の海のタブレットのデータセンターであることを聞いて、ドライブイースト彼は火と水から学生を救出することができると聞いて、彼はここを爆破する必要があると決めたので、彼はワンワンワンイーストタワーの道を探し始めました。

ロジャーはワンワールド東塔を探す旅に出るが、その心には決意と勇気が満ちていた。それが単なる冒険ではなく、本の海の平板に縛られ、自由を渇望する生徒たちのための戦いであることを、彼はよく知っていた。途中の風景は彼の目から色を失い、彼の心には遠く神秘的な目標、ワンワールド・イースト・タワーしかなかった。

未知の地域へと踏み込んでいくうちに、ロジャーはさまざまな人や出来事に出会う。ある者は彼の無邪気さをあざ笑い、これほど巨大なデータセンターを自力で揺さぶることはできないと考えた。ある者は彼を励まし、ワンワールド・イースト・タワーにまつわる伝説や手がかりを分かち合った。そのたびにロジャーは自分の信念を固め、ワンワールドタワーへの理解を深めていきました。

ふとしたきっかけでロジャーは東島グループの会長である賀東島と出会う。あらゆる古代の技術や魔法に精通しているだけでなく、ワンワード・タワーについても深い知識を持っている。ワンワールド東塔は単純な物理的建造物ではなく、実際には高度に発達した知能システムによって制御された仮想と現実の絡み合った迷路であるとロジャーに語った。それを破壊するには、強力な物理的力だけでなく、知性と戦略が必要だ。

賀東島の助けを借りて、ロジャーはワンワールドタワーの防御システムを解読する方法を学び始め、一見不可解な落とし穴や仕掛けを回避する方法を学びます。彼らは一緒に古文書を調査し、未知のテクノロジーを探索し、さらにワンワード・イースト・タワーに関連する秘密組織に潜入して、さらなる手がかりと資源を探します。

数え切れないほどの日夜の努力を経て、ロジャーはついにワンワールド東塔の中核への道を見つけました。そこで彼は未曾有の挑戦に立ち向かう-- ワンワールド東塔の守護者であり、生徒たちの苦悩の源でもある、無数のデータからなる巨大な怪物。ロジャーは大きく息を吸い、学んだすべてを力に変え、賀東島と肩を並べてその怪物に突撃を仕掛けた。

戦いは激しく残酷だったが、ロジャーと賀東島は強い信念とたゆまぬ努力によって、ついにその怪物を倒した。モンスターが倒れ、ワンワード・イースト・タワーのデータセンターが崩壊し、生徒たちを束縛していたデータの束縛が解けた。生徒たちはようやく解放され、歓声をあげ、飛び跳ねながら、ロジャーとカドン島がもたらしてくれた解放に感謝した。

ロジャーはワンワールド東塔の廃墟の上に立って、遠くの生き返った世界を見て、心は満足と誇りでいっぱいです。この冒険は終わったが、自分たちの物語はまだ始まったばかりだということを、彼は知っていた。これから先も、彼らは生徒たちの利益のために戦い続けるだろう。(次回作: 『ソース: どこか』)